

子どもたちの元気な声がこだまする伊那谷に!

そ が いっろう

曾我逸郎プロフィール

1955年(昭和30年)生まれ65歳

物心つく前に父母が離婚。母子家庭で育ち、日本育英会奨学金で高校・大学に進む。

京都大学文学部哲学科卒業後、広告大手・電通に入社。大阪、香港などで勤務し、営業部長だった2002年、47歳で早期退職。

家族6人で移住した上伊那郡中川村で、村の合併反対運動に参加したことが縁となり、2005年に中川村村長に。

3期12年の村長時代は、財政の大幅健全化を果たしながら、子どもの医療費や給食費の無料化を拡充。子育て支援施設を商業エリアに新設し地域の活性化も実現するなど、暮らしにやさしい村政を進めた。

強権を行使し異論を排除する安倍政権に立ち向かうために、2017年の衆院選に無所属で立候補し、次点で落選。

現在、立憲民主党長野県連副代表・第5区総支部長。中川村柳沢地区土木部長。

家族農業を未来に引き継ぐ!

戸別所得補償制度の復活・拡充



農作物価格が下がっても、若者が農業を継ぎ、所帯を持って子どもを育てていけるように。集落の共同作業やお祭りを元気に続けていける伊那谷に。

消費税など負担を下げる!

可処分所得を増やして暮らしにゆとりを



所得を増やすだけでなく、負担を減らして、自分のため家族のために使えるお金を増やす。個人消費を増やして、実感できる景気回復を実現。

ふるさとにもっと
若い人たちを!

最低賃金を大幅にアップ!

同時に中小企業を支援します



全国一律同額にして東京一極集中を是正し、ふるさとに若者を取り戻す。賃金を上げ公的負担を減らして、今にゆとりを、未来に安心を。

農山村ベーシックインカム

農山村に活力を!



地域にしっかり根差して暮らす人に定期的継続的に一定額を給付する制度。農山村に人を呼び込み、元気を回復して未来につなげる。

消費税、健康保険料、年金掛金…。国民負担は重くなるばかり。教育も大変です。賃金は上がらないのに、財政赤字を理由に庶民の負担ばかり増えています。お金のあるところにもっと担ってもらい家庭で使えるお金を増やす。若い人たちが地方でのびのび暮らせるようにすれば、伊那谷は元気になり、子どもたちの声も響きます。

そんな伊那谷に。
あなたの一票で。



そが
逸郎
いっろう

立憲民主党公認

衆議院議員候補

立憲民主党

比例は立憲民主党に

詳しい情報はこちらから!

そが逸郎



<https://itsuro-soga.com>

